

地 整 第 6 2 4 号
平成20年10月16日

国土交通省道路局長 様

湯沢町長 上村 清隆



今後の道路行政についての意見・提案の提出について（回答）

平成20年9月19日付け、国道企第37号で依頼のありました標記について、別紙様式により回答いたします。

今後の道路行政についての意見・提案

様式 ①

①道路行政全般についての改善すべき点、要望や提案など

新潟県湯沢町

○現状

地方における交通手段は、公共交通施設が整備されている都市部と違い、自動車に依存せざるを得ないため、基幹道路並びに生活道路の整備の必要性は非常に高く、必要な道路整備はまだまだ遅れているのが現状であります。

○課題・要望

政府は、道路特定財源を来年度から一般財源化することを閣議決定し、その見直しに関する4つの措置を講じるとしていますが、すべての措置を強力に推進していただくとともに、中でも地域の道路整備については、地域間格差の解消を図るため、地域のニーズを踏まえた、真に必要な道路整備を強力に推進していただきたい。

②-1 地域の現状と抱える課題

新潟県湯沢町

○現状

本町の幹線道路は、南北軸に關越自動車道及び一般国道17号があり、これらを補完する一般県道7路線及び一般町道17路線によって道路網の骨格を形成しています。国道は、首都圏との広域幹線道路として機能を果たしているほか、県道は、山間地の主要幹線としての機能を持っており、町民の日常生活の重要な基盤になっています。また、町民の生活道路やスキー場等の観光拠点への連絡道路としての町道は、354路線、実延長159kmの交通網を形成しています。この内、市街地内の主要幹線の都市計画道路は14路線、総延長は22.3kmとなっています。

また、本町は国内有数の豪雪地帯であり、特別豪雪地帯、積雪寒冷地特別地域の指定を受けていますが、全国でも有数のスキーリゾートとして、シーズン約300万人のスキーヤーが訪れます。

○課題

本町を縦断している一般国道17号は、首都圏と新潟県を結ぶ重要な幹線道路として、また關越自動車道が事故等で通行不能となった場合や危険物積載車両の唯一の迂回路として大きな役割を担っていますが、県境地域には三国、二居、芝原トンネルといった長大トンネルが多く、地形的にも急勾配、急カーブが連続的に続くなど、この区間は自動車交通の難所となっています。特に三国トンネルは昭和34年に、芝原トンネルは、昭和37年に竣工したものでいずれも老朽化が進んでいます。また、酸性水や湧水による被覆工事のため断面が狭小となり、大型車両の対面通行が極めて危険な状況となっているため、新トンネルの開削と接続道路の整備が緊急な課題となっています。

同じく、国道17号の南魚沼市と当町を結ぶ通称「赤坂峠」と呼ばれる区間は、急勾配が連続しているため、冬期間、登坂不能車両やスリップ事故により交通渋滞が発生しております。近年、登坂車線の増設と消雪施設の整備を進めていただきましたが、両市町はスキー産業等による広域観光圏でもあり、地域経済の発展と活性化のためには、この区間の湯沢塩沢道路整備事業（通称赤坂バイパス）の実現が地元の悲願となっています。

本町は、国内有数の豪雪地帯なため、冬期の町民と来訪観光客の安心・安全の確保を図るには、災害に強い国土づくりという視点で雪崩防止対策事業の推進が必要となっています。

一般県道湯沢温泉線は、湯沢温泉街のメインストリートとなっていますが、歩行者空間が確保されておらず、街なみ景観も観光地としての魅

力に欠けています。楽しく安全に歩ける温泉通りとするために、歩道整備と無電柱化事業の実施が急務となっています。

②－２ 地域の目指すべき将来像

新潟県湯沢町

地方分権、地方の時代といわれていますが、地方自治体が主となった分権改革と税源移譲でなければなりません。政府の分限論議が事務移譲だけでは地方は疲弊していくだけです。

今までは行政も道路も一極集中の感がありました。江戸時代より五街道の始まりは日本橋といわれたように、それが脈々受け継がれ、今日に至っています。道州制が議論されている今日、幹線道路（国道）に加え、地方にとって将来必要となる道路網計画も道州制の議論とあわせて検討していくことが大切であると思います。

また、今年より国土交通省に観光庁が設立され、国内１６地域が「観光圏」として認定を受けました。新潟県では当町も含め近隣３県７市町村が連携した「雪国観光圏」が認定され、自治体の枠組みを超えた広域観光を目指しています。当然、誘客を図る上ではソフト事業の連携もさることながら、圏内の道路整備は不可欠であり、道路整備の促進にあたっては関係機関に広域観光という視点で捉えていただきたいと思っています。

今後の道路行政についての意見・提案

様式 ④

③道路施策の重点事項（代表事例、期待する効果や評価等）

新潟県湯沢町

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○ その他
無電柱化の推進	県道湯沢温泉線の無電柱化による歩行者の安全・安心の確保と美しい街なみ形成	湯沢町観光の玄関口である温泉通りを無電柱化と歩行者空間の確保を図ることによって、統一的な美しい街なみが形成され、誰もが集いたくなるような魅力ある観光地の創出が可能となる。	H 2 1 ～ 2 5 までの次期 5 力年計画に次の 2 路線を新潟県に要望済 ・ 県道湯沢温泉線 ・ 町道主水楽町線